

.....
 工 事 畫 報 信 條

世界の工事精神

今日でこそ北米ニューヨーク市のマンハッタン附近には35本の水底トンネルが開通してをるが、此の世界で最も多数の水底トンネルを有してをる米國でも、初めての工事に如何に苦心慘憺たるものがあつたか、工事關係者の努力と苦心とは實に筆舌に表はす事の出来ないものである。我々が千間か千五百間のトンネル工事を施工するにも途中で逃出し度くなつたり、病氣になつたり種々な體驗を経ねばならぬが、彼等が水底トンネルに成功する迄には實に想像も出来ない困難と闘つてをるのである。美しい世界の文化國として、誇り得る根底にはそれ丈の不屈不倒の犠牲的努力があつたればこそである。

詩人や、藝術家や、軍人や、實業家が多くの成功美談を傳へられる中に工事は如何に見られるであらうか。

土木建築の工事も職分として人間の努力と萬難不屈の精神が根底とならねば、文化の花は其國に咲かない筈である。唯表面の物質萬能振りのみを見習ふ事は危険至極である。

我國が歐州大戰の餘波をうけて偶然にも一時物質的に恵まれた時は、國を擧げて唯眼前の營利に無中であつたが、それは我國本來の富強ではなかつた、精神的根底のない所謂成金の夢は忽ち破れて終つたではないか。

工事もやがては國民精神の根底に強く強く立脚しなければならぬ。

我々の工事經驗と社會經驗はまだ頗る淺いものである、唯其時々風の吹き廻しでグラタタしてをる魂性では録な工事が出事るものでない。

何んな小さい工事でも一國の日本人の仕事としてやらねばならぬ。

生活と境遇に餘裕のある一國の先輩は果して何を考へ、何を語らうとするであらうか、自分の兒女の健全なる發育を希望する如く、我が日本の強健を希望しない人はあるまい。

工事美談よ

工事美談よ

新年初頭に工事精神を強調する所以である。(岡崎生)

The first issue of the Koji Gaho for the year 1928 is devoted to a collection of brilliant stories of leading Japanese engineers' experiences, which editor believes will be some kind of stimulation for young engineers.

